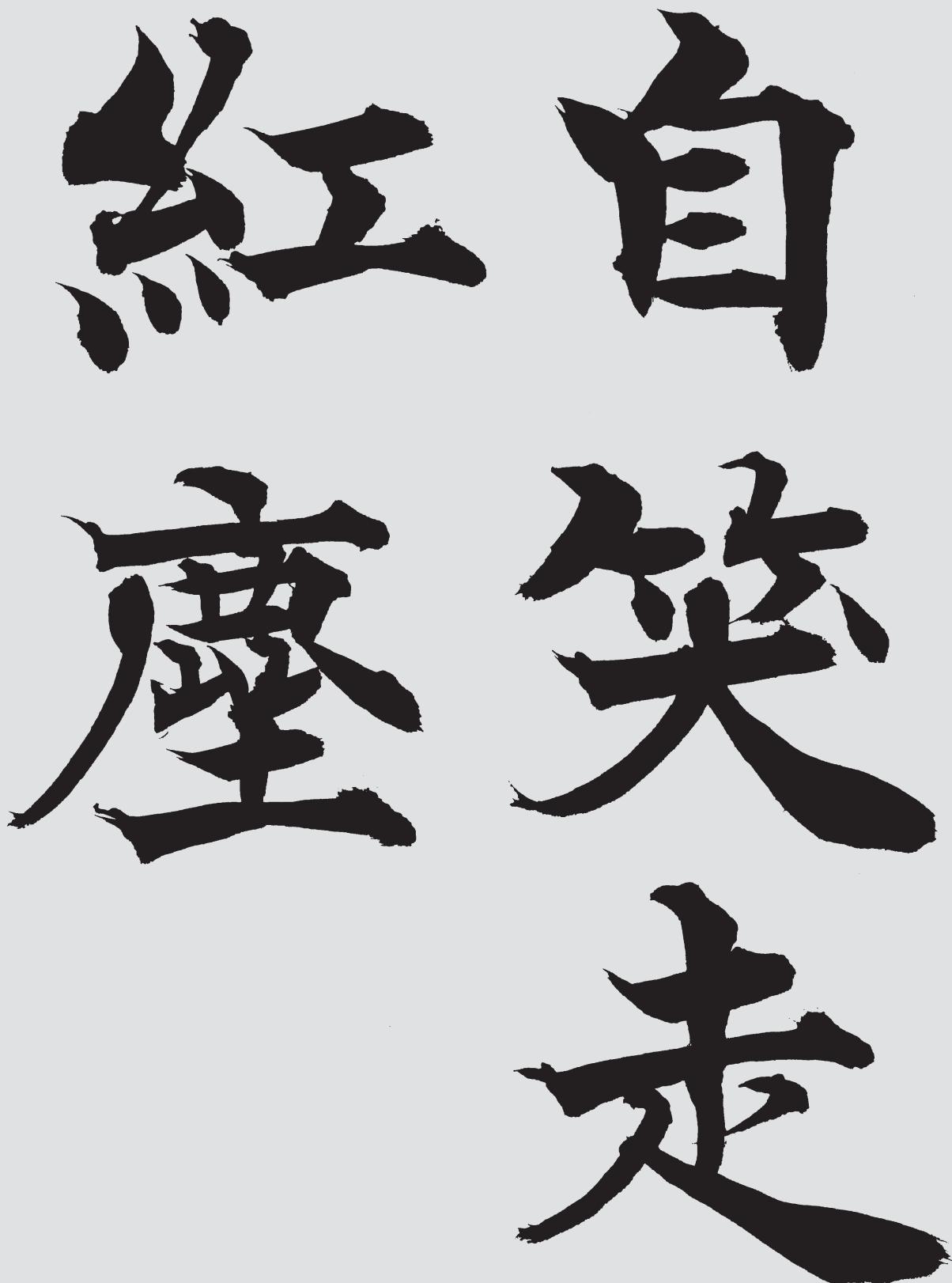


参考手本

※これは規定課題ではありません。



参 考 手 本

※これは規定課題ではありません。



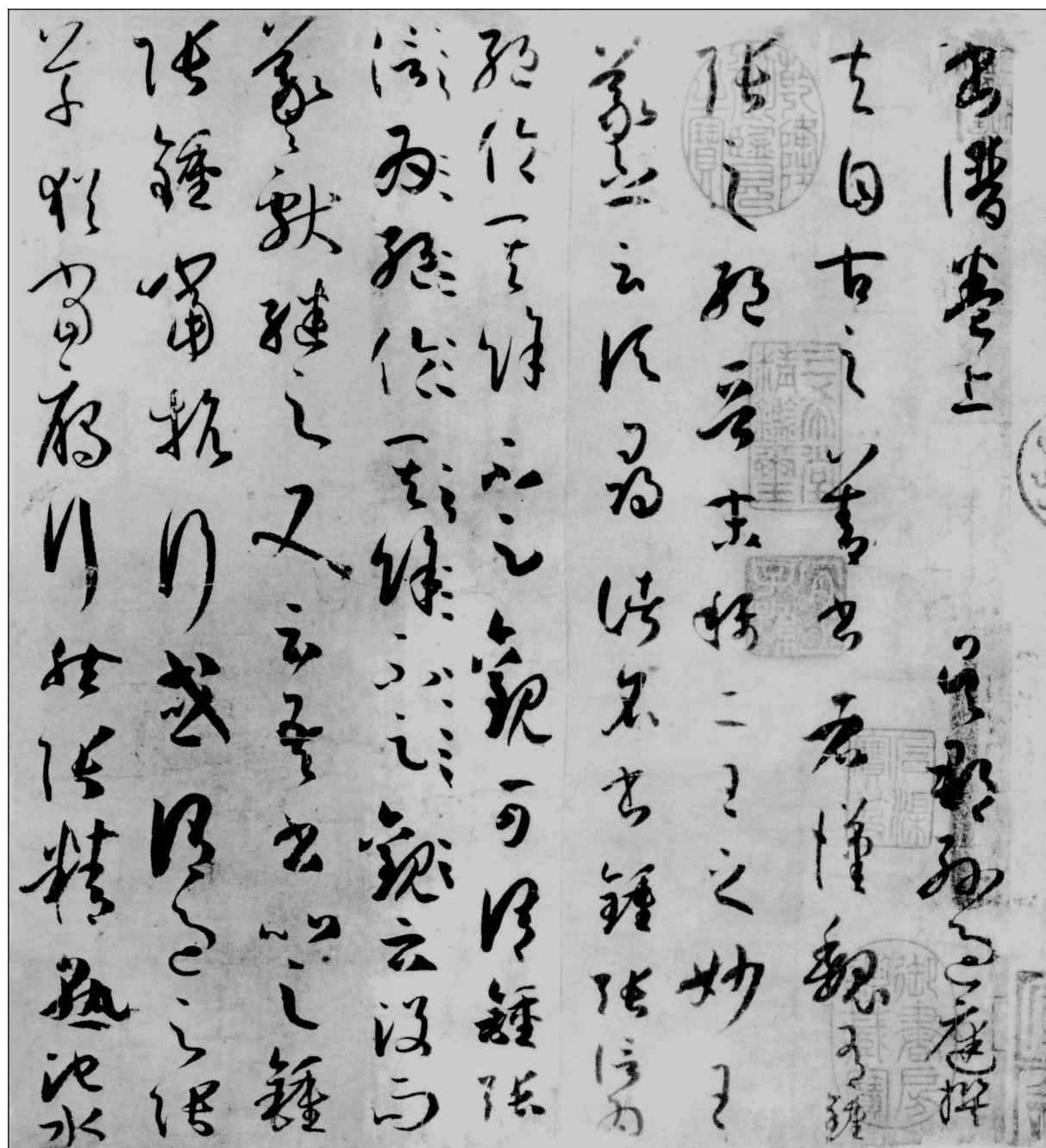
みずか
ら笑
し紅塵
に走る

高木聖雨先生

『書譜』孫過庭

A部(準五段以上)
B部(四段～準三段)

条幅規定



書譜卷上 吳郡孫過庭撰。

夫自古之善書者。漢魏有鍾張之絕。晉末稱二王之妙。王羲之云。頃尋諸名書。鍾張信爲絕倫。其餘不足觀。可謂鍾張義獻繼之。又云。吾書比之鍾張。鍾當抗行。或謂過之。張猶當雁行。然張精熟。池水

書譜卷上 吳郡の孫過庭撰す。夫れ古よりの書を善くする者は、漢魏に鍾張の絶有り、晋末に二王の妙を称す。王羲之云く。頃諸の名書を尋ぬるに、鍾張は信に（絶倫）たり。其の余は観るに足らずと。謂う可し、鍾張云に没して、羲献之を繼ぐと。又云く、吾が書は之を鍾張に比すれば、鍾には當に抗行すべく、或いは謂えらく、之に過ぎんと。張の草には猶當に雁行すべきも、然れども張は精熟して、池水

【今月の課題】

「書譜卷上 吳郡孫過庭撰。
夫自古之善書者。漢魏有」
(20字)

条幅のバーコード出品券にはA・B・Cでは無く段・級を記入して下さい

(7月10日締切)

条幅規定

C部（二段以下）

『集字聖教序』

王羲之

翠嶺窮以法性凝寂庵歸心而不通智地玄奧處體滅而遂顯宣謂重鑒之夜燭慧炬之光火宅之相降法雨之澤於是百川異流同會於海乃立弘義塔成年寶室與湯武按其像方堯舜比其聖德者哉玄奘法師者夙懷胎念

翠領○竊以法性凝寂○靡歸
心而不通。智地玄奧。感懇
遂顯。豈謂重昏之夜。燭慧

燐之光。火宅之朝。陰法雨之澤。於是百川異流。同會於海。萬區分義。總成乎實。豈與湯武校其優劣。堯舜比其聖德者哉。玄奘法師者。夙懷聰令。

翠嶺に接せしむ。窃かに以みるに
法性は凝寂なるも、帰心して通ぜざ
る靡く、智地は玄奥なるも、懇誠に
感じて遂に顯わる。豈に謂わんや重
昏の夜、慧炉の火を燭し、火宅の朝、
法雨の沢を降すと。是に於いて百川
は流を異にするも、同に海に会し、
万区は義を分つも、總べて実を成す。
豈に湯武と其の優劣を校へ、堯舜と
其の聖徳を比ぶる者ならんや。玄奘
法師という者は、夙に聰令を懷き、

【今月の課題】

「翠嶺。竊以法性凝寂。靡歸心而不通。智地玄」

条幅のバーコード出品券にはA・B・Cでは無く段・級を記入して下さい

(7月10日締切)

半紙規定(二)

疾同憂勞成疾同憂勞成

九成宮醴泉銘(唐・歐陽詢)

※清書作品には支部名・段級・雅号を必ず筆で記入して下さい。

憂勞成疾同

合餘火畫夷支

半紙規定(一)

曹全碑(漢・作者不詳)

—

合餘火畫夷支

[この課題を同月の半紙随意には出品出来ません]
(7月10日締切)

※清書の提出は〔初段以上〕楷書か隸書

〔一級以下〕楷書

憂勞して疾を成すこと、堯の肌の腊の如き同じく

条幅参考手本

微涼千磣合返照一江紋近

浦初吹浪前山欲起雲

江雲

微涼千磣合 返照一江紋 近浦初吹浪 前山欲起雲

微涼千磣合し 返照一江紋す 近浦初めて浪を吹き 前山雲を起こさんと欲す

大越三宗先生

雨驟泉聲急 雲涼樹色濃 不知何處寺 忽送一聲鐘
雨驟かにして泉声急に 雲涼しくして樹色濃やかなり 知らず何れの処の寺ぞ 忽ち送る一声の鐘

青柳江雲先生

条幅かな

なつ
夏の夜のよ
ありあけ
農利阿道
み
月を見るほどに秋をもまたで風ぞ涼しき
三
越
本
二
平母万多帝所
一
幾
(藤原師通)



※かな部は支部名・段級・姓号を鉛筆で左側下部に添え書きして下さい。

条幅参考手本

山際見來煙 竹中窺落日 鳥向簷上飛
山際に来煙を見 竹中に落日を窺う 鳥は簷上に向かって飛び
雲従窓裏出

雲は窓裏より出ず

浮 乘 清 鄉 先 生

山際見來煙 竹中窺落日 鳥向簷上飛
向簷上飛雲従窓裏出
義山書

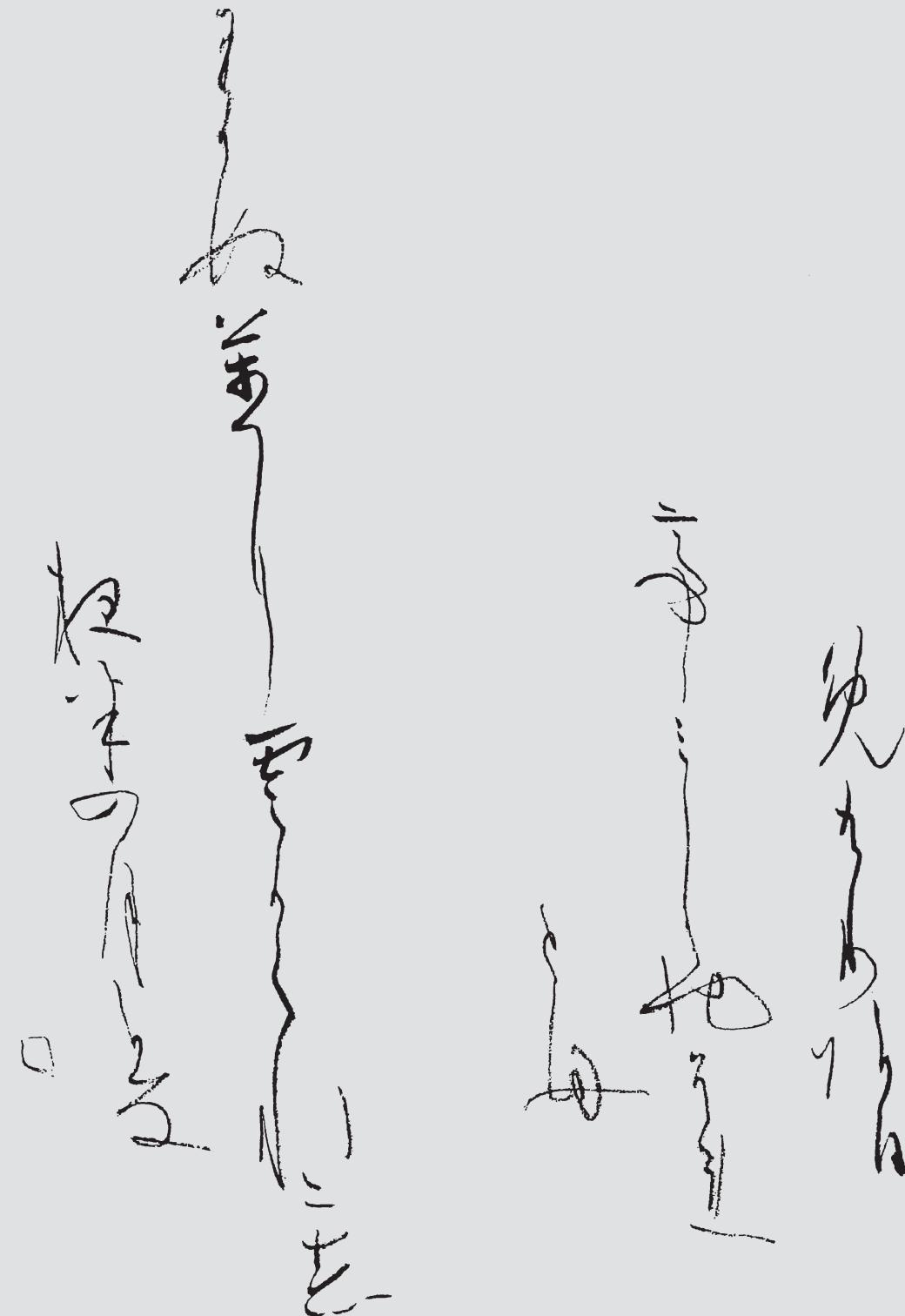
下出義山先生

半紙かな(初段以上)

めぐりあひて見しやそれともわかぬまに雲隠れにし夜半の月かな
免九利阿日帝三曾連母王可萬耳可礼二志可奈

(紫式部)

支部名 段 姓 号 (鉛筆可)



浮乘清郷先生

※支部名・段・姓号を鉛筆で左下に添え書きして下さい。
※ちらし文字変換は自由。

(7月10日締切)

半紙かな（1級～8級）

雲海や鷹のまひるの嶺ひとつ（水原秋桜子）
うんかい や たか の まひる の みね ひとつ
たか の まひる の みね ひとつ
（水原秋桜子）

支部名 級 姓 号
（鉛筆可）

※支部名・級・姓号を鉛筆で左下に添え書きして下さい。
※ちらし文字変換は自由。

船久保 棠苑先生

雲海

十、の、す、め、り、よ、

（7月10日締切）

実用文（準三段以上）

朝平霞山先生

昭和二十八年、独立して北日本書芸院を設立し、機関誌「換鷺」を
芸院を設立し、機関誌「換鷺」を
発行、十月に第一号を出した。
それから四十八年、創立以来開催
されてきた書院、初の展も含め……

支部 あ 品号

〈書風任意〉 昭和二十八年、独立して北日本書芸院を設立し、機関誌「換鷺」を発行、十月に第一号を出した。それから四十八年、創立以来開催されてきた書き初め展も含め：（第五十回北日本書芸院展作品集より）

（7月10日締切）

実用文（二段以下）

稻 餠 幽 翠 先 生

墨は現在、奈良と鈴鹿にしか産

しません。製法は油を燃やした

煤を練り、固め、形にして、灰を

まぶして、徐々に乾燥します。

支部名 段級 姓号

細字

高須翠雲書「五體昭和千字文」より

P52

墨森山脈連峰湛沼
墨森山脈連峰湛沼
墨森山脈連峰湛沼
墨森山脈連峰湛沼
墨森山脈連峰湛沼
墨森山脈連峰湛沼

支部

段級

姓

号

（名前は必ず楷書で書くこと）

※一級～八級は草書まで。
初段以上は隸書まで。

※名前は楷書以外では違反になります。

17 cm (よこ) × 24 cm (たて)

湛たん
沼しょう
沼に水をたたえること。

(7月10日締切)

硬筆（初段以上）

青 柳 江 雲 先 生

青々と草木を渡つて、匂う
よつたな南風。風に香りがあると
いってこれは本当で、初夏の風は、
みずみずしい青葉の香りを
運んでくる。味わひも深くなる。

支那文

系

姓 う

草木を渡つて吹く、匂うような南風。

硬筆（4級以下）

支部名

級

姓

号

極端な糖質カットは命の危険を
もたらす。大切な脳の栄養だ。

硬筆（1級～3級）

支部名

級

姓

号

極端な糖質カットは命の危険を
もたらす。大切な脳の栄養だ。

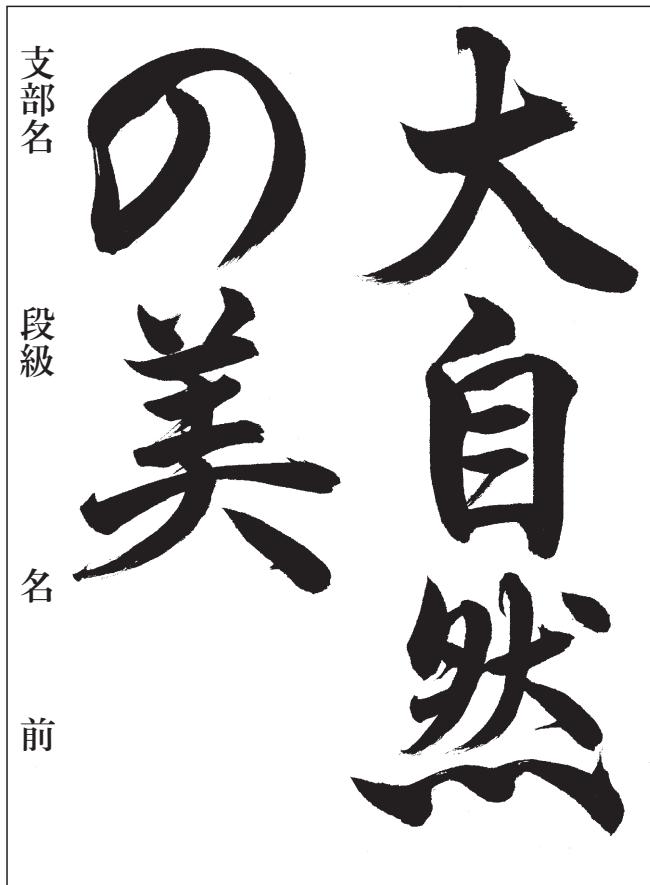
本院定型用紙・たて半分に書く

若月久美子先生

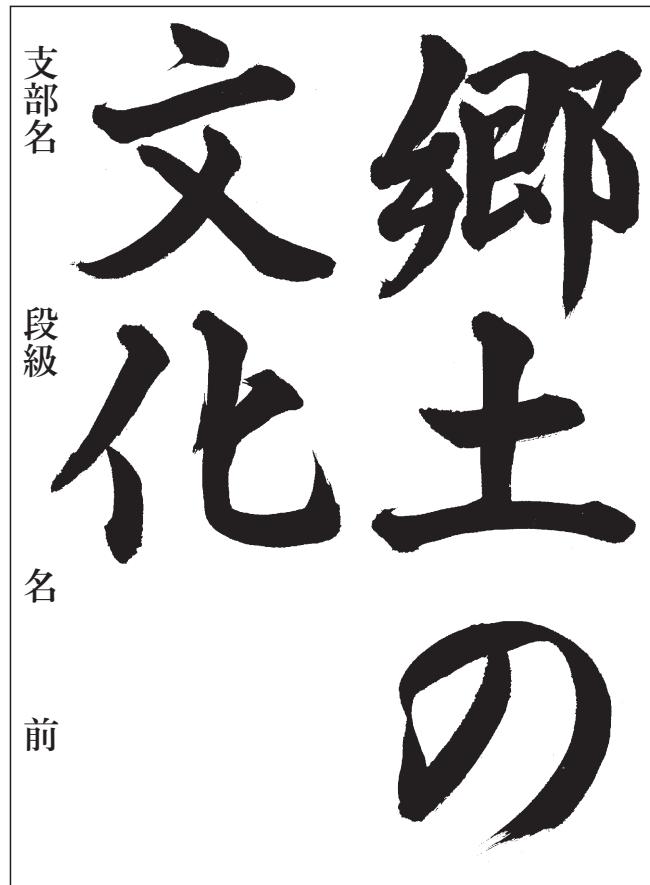
若月久美子先生

(7月10日締切)

中2用



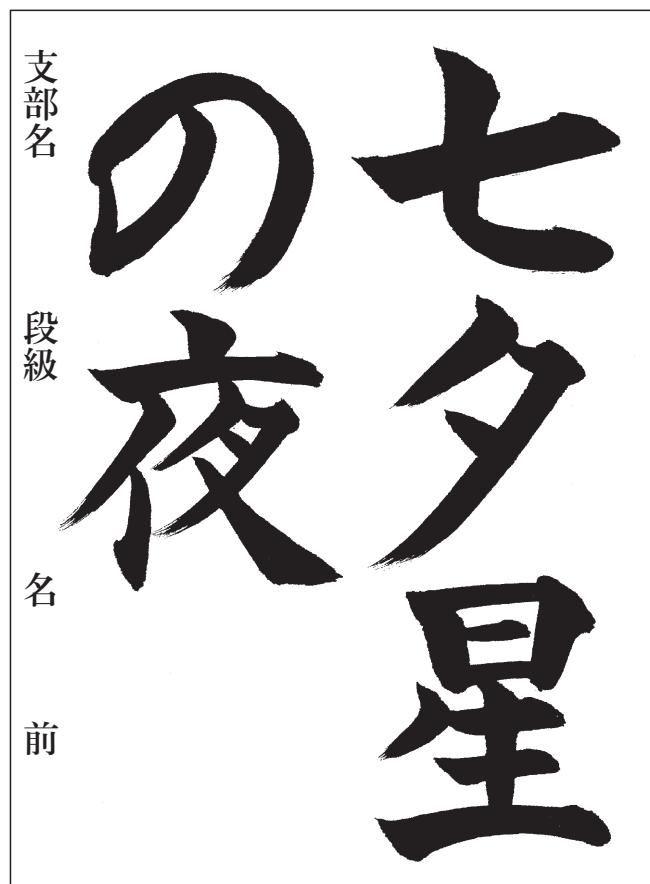
中3用



小6用

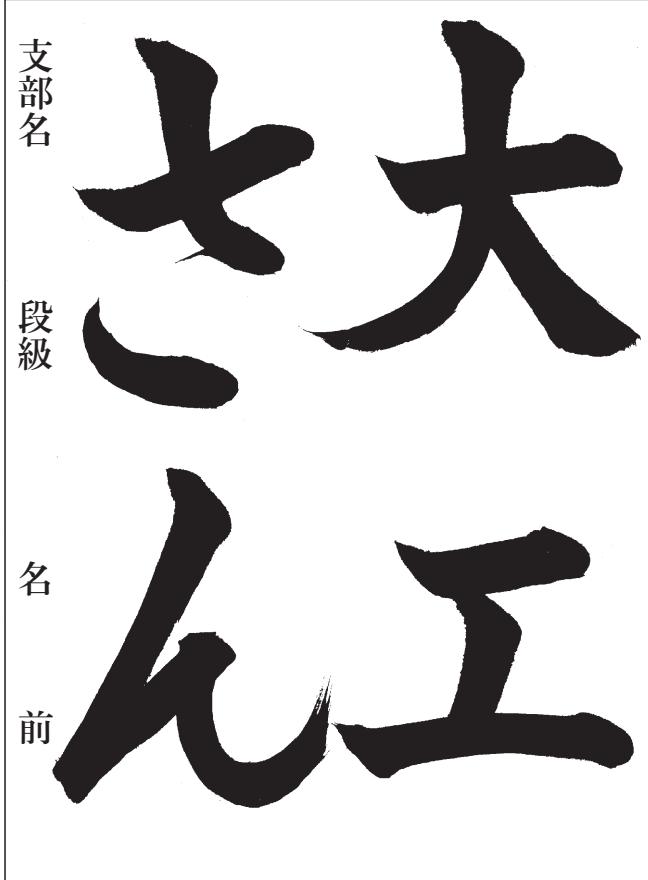


中1用



(7月10日締切)

小4用



小5用



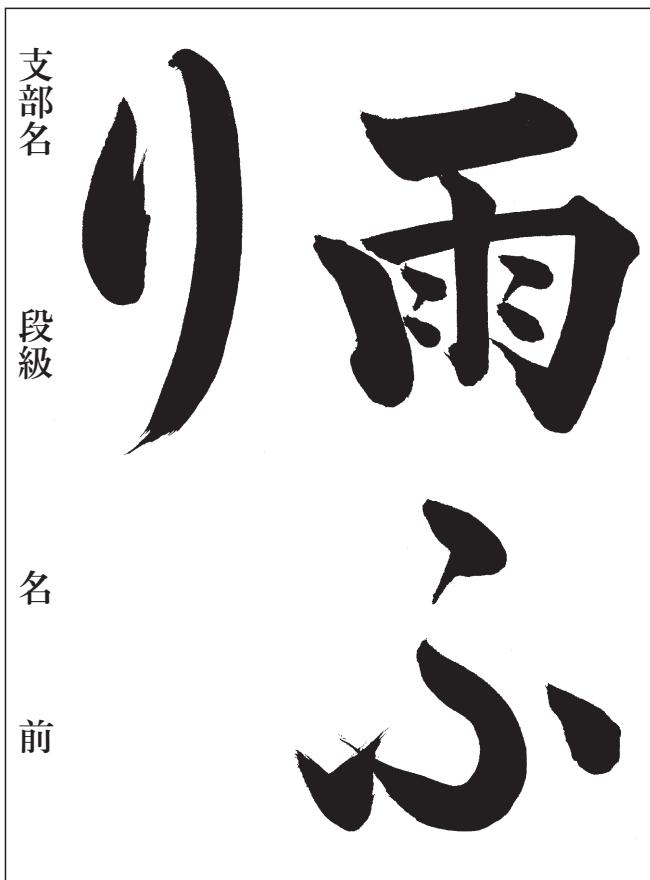
大 越 三 宗 先 生

小2用



大 越 三 宗 先 生

小3用



鈴 木 翡 惠 先 生

(7月10日締切)

中 1

結果より、精一杯努力
することが大切です。

中1～中3

中 2

自然に恵まれ、四季の
変化が美しい日本。

青 柳 江

中 3

勉強に、運動に、絶好
の季節が到來した。

雲 先 生

小1・幼年用

支部名

段級

名 前

鈴木翡翠先生

小1・幼年

小 2

日よう日に、おとうさ
んと山にのぼつた。

齊 藤 翠

小 3

西の空が明るい。あし
たはよい天気だろう。

流 先 生

小 4

動物のしつぽは、色々
な役目をしている。

小4～小6

小 5

漢字は、一字一字きこま
つた意味があります。

鈴 木 蕙

小 6

日曜日に友だちの家へ
自転車で行つた。

翠 先 生

(7月10日締切)

小学部小筆課題

支部名

段級

名

前

白い雲

初夏の海

主幹菅野翠濤

中学部かな課題

支部名

段級

名前

長きにばらの海の
ほ

桜貝

船久保棠苑先生

・半紙半分に書いて下さい（7月10日締切）

漢字筆順表（教育漢字）